

強者の戦略

英語から学ぶ1「思索のアルバム(4)」

Wittgenstein が“Thus this book is really only an album.” (それ故にこの本は真の意味で単なるアルバムである。) と述べたとき、彼が一体何を伝えようとしていたのか——それが本稿の出発点でした。第1パラグラフでは、*Philosophical Investigation* が思索を体系的にまとめたものではないこと、思索がある主題から別の主題へと変遷し続けることこそが Wittgenstein にとって本質的であることが述べられていました。続く第2パラグラフはそのように考えるに至った思考を説明したものになっていましたが、その中で Wittgenstein は「思索」(the thoughts) を「旅」(journeyings) に、「哲学的注記」(philosophical remarks) を「景色のスケッチ」(sketches of landscapes) に、それぞれ喩えています。

第3パラグラフは、その比喩を受けて議論が進んでゆきます。

【第3パラグラフ1文目】

The same or almost the same points were always being approached afresh from different directions, and new sketches made.

Ludwig Wittgenstein, translated by G.E.M. Anscombe (1953),
Philosophical Investigation, Basil Blackwell, p. vii

過去完了進行形 (were ... being approached) が用いられていますが、それ以外には特に注意する点はありません。文構造的には、ですが。

【第3パラグラフ1文目 和訳例】

同一の、あるいはほとんど同一の地点が、改めて異なる方向から常に取り上げられ続け、そして新しいスケッチがなされた。

ここでは“points”を「地点」と訳しましたが、辞書を調べれば「論点」という訳語も出てきます。恐らく Wittgenstein は“points”を思索の対象となる主題 (subject) を比喩的に表現するものとして用いているのでしょう。「だったら『論点』や『主題』と訳した方が良いのでは？」と思うかもしれませんが、後ろに“new sketches made” (新しいスケッチがなされた) とあるので、あくまで旅とスケッチの比喩の中で解釈することにしました。

※ ところで、スケッチ (sketch) の意味は正確に把握しているでしょうか？ *Oxford Advanced Learner's Dictionary 9th edition* によると、sketch は「素早く描かれて多くの詳細をもたない単純な絵」(a picture that is drawn quickly and does not have many details) という意味をもちます。「略画」と訳されることもあるようです。

この文が示唆しているのは、Wittgenstein は主題を変遷させつつも同じ主題に何度も立ち戻り、様々な観点から思索を進めていったということです。同じ対象を見るとき、1つの方向のみから見るのと様々な方向

強者の戦略

から見るのとでは得られる情報の重みが大きく異なることは容易に想像がつくでしょう。それらの情報を統合することで実物のイメージを正確に把握することができるわけですが…Wittgensteinはその統合を断念してしまいました。

【第3パラグラフ2文目】

Very many of these were badly drawn or uncharacteristic, marked by all the defects of a weak draughtsman.

Ludwig Wittgenstein, translated by G.E.M. Anscombe (1953),
Philosophical Investigation, Basil Blackwell, p. vii

文法的には受動態 (were ... drawn) と付帯状況の分詞構文 (marked by ...) が用いられている点に注意が必要です。“draughtsman”という語も見慣れなかったかもしれません。イギリス英語ではこの綴りになるのですがアメリカなどでは“draftsman”と表記されます。辞書には「製図者」や「(文章の) 起草者」という意味が載っていますが、旅とスケッチの比喻の中で捉えるなら「絵描き」くらいの意味で捉えても良いかもしれません。

【第3パラグラフ2文目 和訳例】

それらのうちの非常に多くはへたくそに描かれたか面白みのないもので、へたくそな絵描きのあらゆる欠点によって特徴づけられていた。

ここでの「へたくそな絵描き」 (a weak draughtsman) は Wittgenstein 自身のことを暗に意味していると考えられます。そして彼の記述を素直に受け止めるなら、自身のスケッチ (→哲学的注記) の大半は彼の審美眼に叶うものではなかったようです。それでは、*Philosophical Investigation* は Wittgenstein によるへたくそなスケッチ集に過ぎないのでしょうか？ もちろん、答えは No です。

【第3パラグラフ3文目】

And when they were rejected a number of tolerable ones were left, which now had to be arranged and sometimes cut down, so that if you looked at them you could get a picture of the landscape.

Ludwig Wittgenstein, translated by G.E.M. Anscombe (1953),
Philosophical Investigation, Basil Blackwell, p. vii

“they”の指示対象は前文 (2文目) の主語 (Very many of these) になります。そして they に含まれなかったスケッチが“a number of tolerable ones”ということになります。“which ...”は非制限用法 (継続用法) の関係詞節なので、訳し下す形で読み進めると良いでしょう。“so that”は目的を導く場合 (～のために) と結果を導く場合 (その結果～) がありますが、ここでは結果の用法になっています。

強者の戦略

【第3パラグラフ3文目 和訳例】

そしてそれらが捨て去られ、何とか耐えられるものが残された。それらはすぐさま整理され、時には短くされなければならなかったが、その結果、人々がそれらを目にすればその景色の絵を手に入れることができるようになるだろう。

Wittgenstein は *Philosophical Investigation* を「この16年間私の頭を占めてきた哲学的探究の結果生じた沈殿物」 (the precipitate of philosophical investigations which have occupied me for the last sixteen years) と称していましたが、この文を読む限りでは、その『沈殿物』は少なくとも Wittgenstein による審美眼に耐えうる質のもののようにです。また、Wittgenstein は自身のスケッチが「その景色の絵を手に入れる」 (get a picture of the landscape) のに役立つと述べていますが、それ以上のことは述べていません。比喻を元に戻して考えてみましょう。スケッチとは哲学的注記のことであり、スケッチされた景色とは哲学的思索の主題のことでした。Wittgenstein が *Philosophical Investigation* に修めた種々の注記は、彼が取り組んできた主題の全体像を把握するのに役立つものではありませんが、哲学的問題を解決するようなものではないということが読み取れます (Wittgenstein が断念した体系化が成れば『解決』を謳うことになったのかもしれませんが...)。

そして、あの文が来ます。

【第3パラグラフ4文目】

Thus this book is really only an album.

Ludwig Wittgenstein, translated by G.E.M. Anscombe (1953),
Philosophical Investigation, Basil Blackwell, p. vii

Wittgenstein がこの結論に辿り着くまでの記述を正確に理解できていれば、彼がこの言葉に込めた意味をより深いレベルで理解することができるはずです。Wittgenstein は“an album”という語を字義通りの意味で、つまり「写真や楽曲などが収められていて、見たり聴いたりするもの」という意味で用いているわけではありません。哲学的注記をスケッチに喩えた文脈の中で、景色の在処 (= 哲学的主題の全体像) を理解する上で役立つスケッチ (= 哲学的注記) を収めたものとして「本」 (book) を「アルバム」 (album) に喩えたのでしょう。

英語に限った話ではありませんが、文の中には文脈から切り離された途端に筆者の意図が見えなくなってしまうものが少なくありません。そのことを肝に銘じておけば避けることのできる誤解は多いのですが... かなかなかうまくいかないものです。

それでは、今回はこの辺で。またの機会にお会いしましょう。